

4年1組 道徳科学習指導案

日時 平成30年10月26日 第5校時
場所 小島小学校 4年1組教室

1 主題構成表

主題名 本当の思いやり

資料名 せきが空いているのに

<p>■内容項目 B- (6)</p> <p>相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p>	<p>■価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・「本当の思いやり」とは、相手が本当に困っているときや助けを必要としているときに、相手の気持ちを推し量り、どうすることが相手にとってよいことなのかを考えて行動することである。・中学年では、相手の立場に立つことを強調し、様々な人との関わりの中で、思いやりの心を広げていく必要がある。自分の一方的な思いではなく、相手の気持ちに沿って支えていこうと行動することを大切にする。・この時期の児童は、困っている人を見ると、思わず手を差し伸べたくなる。しかし他の人の気持ちは自分の気持ちと同じであると思ってしまうこともある。そこで、相手の立場や気持ちを自分のこととして考え、親切な行動を進んで行うことの大切さに気付かせたい。	<p>■教材（資料）の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・本教材は、父と電車に乗っている主人公が白杖を持っている人と出会い、その人のことを想って席が空いていることを伝えるが、「電車を降りるにはここに立っているのが一番都合が良い」と言われ、目の不自由な人だからこそ、できるだけ自分の力でしたいと考えていることに気づき、本当の思いやりを理解するという内容である。相手の立場になって考えるという気持ちこそ、本当の思いやりであることに気付く内容である。・まず、白い杖の人を心配し何かしてあげたいという主人公の気持ちに共感し、そのような気持ちは自分にもあることに気付くことができる。・白い杖の人の嬉しそうな顔を見たときの気持ちを考え、相手の気持ちを大切にして親切にすることが相手も自分も温かい気持ちになれることを実感することができる。
<p>■内容項目から見た児童の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none">・困っている子を見かけると、助けてあげたいという気持ちになり、声をかけたり、手を差し伸べたりすることができる。・すぐに何かをしてあげてしまい、相手の立場や気持ちを考えてから、行動することが難しい。 <p>■要因</p> <ul style="list-style-type: none">・親切にすることとは「何かをしてあげること」という考えにとどまっている。親切には「してあげる」こと以外にも形があることに気付いていない。		

<p>■ねらい</p> <p>本当の思いやりとは一方的に何かをしてあげることではなく、相手の気持ちを大切にして支えることであることに気づき、相手の立場に立って進んで親切にしようとする心情を育てる。</p>
--

<p>■他の教育活動との関連</p> <p><よいことみつけ> 相手の気持ちを考えて、親切にできたことや親切にしてもらったことを振り返り、「たからばこ」に掲示していく。</p>		
<p>■事前</p> <ul style="list-style-type: none">・思いやりのある行動を朝の会や帰りの会等で紹介し、いろいろな場面で親切な行動ができる。	<p>■本時</p> <p>道徳 「せきが空いているのに」</p>	<p>■事後</p> <ul style="list-style-type: none">・思いやりのある行動だけでなく、そのとき親切にした人やされた人の気持ちを考えていく。

2 本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助 *人権教育の観点
導入	<p>1 「思いやり」とはどのようなことかを考える。</p> <p>○人を思いやるとは、どういうことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に声をかけてあげる。 ・がんばっている人を応援してあげる。 ・自分から手伝ってあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりについてのイメージを膨らませ、本時の学習の見通しをもたせる。 ・事前にアンケートをとることで、意図的に指名をし、思いやりのイメージを共有できるようにする。
展開前段	<p>2 資料を読み、主人公の気持ちや行動について話し合う。</p> <p>○感想を發表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えない人のことを心配していて優しいと思いました。 ・「ぼく」も白い杖の人も、最後にうれしそうな顔をしてよかったです。 <p>○白い杖の人が「気になってしかたなかった」とき、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座りたいのかな。 ・電車が揺れて転ばないかな。 ・空いている席がわからないのかな。教えてあげたいな。 ・声をかけようか、どうしようかな。 <p>◎「とてもうれしそうな顔」をしているその人を見て、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>☆グループ交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんに相談してよかったな。 ・今度は自分から声をかけたいな。 ・心配していた気持ちが伝わってよかったな。 ・おじさんの気持ちが分かってよかったな。 ・お父さんが話かけたことが嬉しかったのかな。 ・自分の気持ちが伝えられたから嬉しかったのかな。 ・お父さんも相手の気持ちが分かって嬉しいだろうな。 ・空いている席に案内するだけが喜ばれるわけではないんだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>深めの発問</p> <p>○どうして「ぼく」は「とてもうれしくなった」のでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんが困っていないことが分かって安心したから。 ・座るだけがいいわけではないことが分かってよかったから。 ・声をかけただけでも、おじさんが嬉しそうだったから。 ・声をかけたことで、お互いの気持ちが伝わったから。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名、主題名を板書して、登場人物を確認し、内容をつかみやすくする。 ・範読の際には、共感できる部分、感心した部分、疑問に思った部分に線を引かせ、感想につなげる。 ・白い杖の人のことを心配している気持ちや、何かをしてあげたいという主人公の気持ちを引き出す。 ・心配する中で、「座った方がいい」と思い込んでいることを押さえる。 <p>*展開前段のグループ交流において、自分の考えを話したり、仲間の考えを聞いたりして、主人公の気持ち考えることを通して、お父さんの立場や白い杖の人の立場など多面的に考える。このことにより、自分と仲間の考えに違いがあることを実感させ、いろいろな立場から考えられることに気付かせる。そのことによって、自己の心の中にある偏見や差別的なものの見方や考え方を改めようとする力を身に付けさせたい。(自己啓発力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で考えた「思いやり」と、深めの発問で考えた主人公の気持ちを比較させ、一方的に何かをしてあげる自己満足の「思いやり」ではなく、相手の立場や気持ちを考えて支えることがより大切であることに気付かせる。
展開後段	<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○今までに相手の気持ちを大切にして親切にできたことや、できなかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大縄交流のときに、すぐに低学年の子の背中を押してあげていたけど、その子がどうしてほしいか聞けば、その子ももっと嬉しかったかもしれないと思いました。 ・困っている子がいたら、自分から声をかけたいです。どんな気持ちか考えてから、応援したり、手伝ったりしたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを大切にした「思いやり」がある親切な行動が、自分も相手も気持ちがいいことを踏まえて、今までの自分についてワークシートにまとめる。 ・振り返りで、特に今日の心と関連付けて書いている児童や、本時の中で気持ちの変容について書いている児童の考えを紹介する。
終末	<p>○教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えると、親切にしたほうもさせたほうも気持ちがいいことに気づき、実践できるように促す。